琉球大学学術リポジトリ

バスク系アルゼンチン人のバスクに対する意識

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄移民研究センター 公開日: 2018-11-13 キーワード (Ja): バスク系アルゼンチン人, アイデンティティ, バスクフェスティバル, アンケート, ラ・パンパ州マカチン キーワード (En): 作成者: 金城, 宏幸, 浜崎, 盛康, 町田, 宗博, 宮内, 久光, 酒井, アルベルト 清, Kinjo, Hiroyuki, Hamasaki, Moriyasu, Machida, Munehiro, Miyauchi, Hisamitsu, Sakai, Alberto メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002010079

バスク系アルゼンチン人のバスクに対する意識

金城宏幸，浜崎盛康・町田宗博，宮内久光，酒井アルベルト清

Ⅰ．アンケートの概要
Ⅱ．アンケート結果と考察

キーワード：バスク系アルゼンチン人，アイデンティティ，バスクフェスティバル，アンケート，ラ・パンパ州マカチン

Ⅰ．アンケートの概要

科学研究費補助金基盤研究（C）「沖縄県系移民の越境的ネットワークと意識・行動に関する地理学的研究」（研究代表者・町田宗博）および琉球大学中期計画達成プロジェクト経費「文化共有集団による越境的ネットワークの国際比較研究――ウチナーンチュとバスク人をめぐって――」（研究代表者・金城宏幸）プロジェクトの一環として，バスク系アルゼンチン人にアンケート調査を行った。海外ウチナーンチュとバスクディアスポラを比較するために，アンケート票は2011年に実施した海外ウチナーンチュ意識調査で用いたスペイン語版を元にして，質問項目の多くは継続した。

アンケートは2015年10月30日～11月1日にアルゼンチン国ラ・パンパ州マカチンで開催されたバスクフェスティバルに集まった参加者を対象に行った。フェスティバル期間中に108部が回収された。さらに，会場で依頼をした11部が郵送などで回収され，最終的には119部のアンケート票が得られた。ただし，回収したアンケート票を検討した結果，アンケート対象者ではない者が含まれていたことが判明した。具体的には国籍と現住国がアルゼンチンではない6人，明らかにバスク系ではないと判断できた8人である。この14人のアンケートは採用しなかった。その結果，最終的にアンケートの有効回答者数は105人となった。アンケートの回答はエクセルに入力して集計をした。

ところで，今回のアンケート調査はバスクフェスティバルに参加したバスク意識がもともと高い人に，バスク意識が高まるように演出された会場で行っているため，そこで得られたアンケート結果は，バスク系アルゼンチン人全体の傾向を示しているかどうかサンプルの代表性の問題を孕んでいる。そのため，次章からのアンケート結果は，バスクフェスティバルに集まった参加者の意識であることに留意が必要である。しかし，各質問項目に対して，性別や年齢階級などアンケート回答者の属性によって結果に違いがみられる場合

は，その差異の傾向と考察については，バスク系アルゼンチン人全体に一般化できると考えられる。

Ⅱ．アンケート結果と考察

1．アンケート回答者の属性

バスクフェスティバルで行った実際のアンケートでは，属性などフェイス項目は最後に問うている。しかし，ここではアンケート回答者のプロフィールを最初に紹介したい。表 1 にアンケート回答者 105 人の属性をまとめた。

まず，性別は女性が 65 人，男性が 40 人である（表 1 - 1）。年齢階層を 10 歳階級で区分すると，最も多い階級は 60 歳代の 23 人であり，50 歳代の 19 人，40 歳代の 18 人と続く。10 歳代も 9 人回答しているので，このバスクフェスティバルは幅広い年代層から参加を得ていることが伺える（表 1 - 2）。回答者の現住地を州別に集計してみると，首都ブエノスアイレス市を含むブエノスアイレス州が 65 人で，参加者全体の約 2/3 を占めている（表 1 - 3）。第 2 位のサンタフェ州（11 人），第 4 位のエントレ・リオス州（8 人）はブエノスアイレス州の北側に位置する。第 5 位のコルドバ州（3 人）も含めて，参加者の 9 割弱はブエノスアイレス州とその近接州から集まっていることがわかる。逆に，会場となっているマカチンを含むラ・パンパ州からの回答者は 2 人に過ぎなかった。回答者の州別構成が現在のアルゼンチンにおけるバスク系の分布と対応していると思われる。

参加者の宗教をみると，カトリックが 71 人であるのに対して，プロテスタントは 0 人であった（表 1 - 4）。出身のバスク地方はカトリック信仰が強い地域であり，移民先のアルゼンチンでも信仰の継続が認められる。なお，その他の宗教は，ユダヤ教が 1 人，イスラム教が 1 人，不明が 1 人である。カトリック信仰が強いバスク系であるが，無宗教も 24 人を数え，全体の 1/4 を占める。年齢階級との関連をみると，70 歳代以上には無宗教者はいないが，50-60 歳代で 22.5%，30-40 歳代で 27.6%と上昇し，10-20 歳代では 38.9%に達する。若い世代のカトリック離れが顕著である。

アンケート回答者の直系親族でバスク地方からアルゼンチンに最初に移民した人，その人のバスク地方の出身地，アルゼンチンへ移民した年代など，移民 1 世について問うた（表 1-5-1 ～ 3）。まずバスク地方から移民した人は祖父母の世代が最も多く，29 人（46.8%）と約半分を占める。つまり，アンケート回答者は移民 3 世となる。次いで曾祖父母の世代が 18 人（29.0%）である。この場合はアンケート回答者は 4 世である。さらにはアンケート回答者が 5 世となる高祖父母の世代が 7 人いた。一方，父母の世代（7 人）や本人自身（1 人）は少なく，バスク地方からアルゼンチンへの移民の移動流は少なくても 2 世代前以前が中心だったことが伺える。最初に移民した人のバスク地方での出身地を 7 領域別に集計した。

表１　アンケート回答者の属性

1. 性別	人数	%
①女性	65	61.9
②男性	40	38.1
合計	105	100.0

2. 年齢階級	人数	%
①10歳代	9	8.6
②20歳代	11	10.5
③30歳代	12	11.4
④40歳代	18	17.1
⑤50歳代	19	18.1
⑥60歳代	23	21.9
⑦70歳代	11	10.5
⑧80歳代	2	1.9
合計	105	100.0

3. 現住地（州）	人数	%
ブエノスアイレス	65	65.7
サンタフェ	11	11.1
リオネグロ	9	9.1
エントレ・リオス	8	8.1
コルドバ	3	3.0
ラ・パンパ	2	2.0
サンルイス	1	1.0
合計	99	100.0

4. 宗教	人数	%
①カトリック	71	72.4
②プロテスタント	0	0.0
③無宗教	24	24.5
④その他	3	3.1
合計	98	100.0

5-1. 移民した人	人数	%
①本人	1	1.6
②父母	7	11.3
③祖父母	29	46.8
④曾祖父母	18	29.0
⑤高祖父母	7	11.3
合計	62	100.0

5-2. 出身領域	人数	%
ビスカイア	13	19.1
ギプスコア	23	33.8
アラバ	8	11.8
ナファロア	19	27.9
ラプルディ	1	1.5
低ナファロア	3	4.4
スベロア	1	1.5
イパラルデ（仏領全域）	2	2.9
合計	68	100.0

5-3. 移民した年代	人数	%
1820－70年代	7	12.7
1880－90年代	12	21.8
1900－10年代	17	30.9
1920－30年代	12	21.8
1940年代以降	7	12.7
合計	55	100.0

6. 結婚相手	人数	%
①バスク系の人	27	45.8
②バスク系以外の人	32	54.2
合計	59	100.0

7. 職業	人数	%
①公務員または会社員	24	27.0
②牧畜業	4	4.5
③農業・林業・漁業	6	6.7
④自営業者（家族従業者）	11	12.4
⑤無職（退職者も含む）	18	20.2
⑥その他	26	29.2
合計	89	100.0

8. 現在の生活への満足度	人数	%
①とても満足している	67	67.7
②少し満足している	13	13.1
③どちらとも言えない	15	15.2
④少し不満である	2	2.0
⑤とても不満である	2	2.0
合計	99	100.0

アンケート集計結果より作成。

最も多かったのはギプスコアの 23 人であり，次いでナファロアの 19 人，ビスカイアの 13 人が続く。アラバの 9 人を加えると，スペイン領バスク地方出身移民の子孫で全体の 9 割を越える。これに対して，フランス領のラプルディは 1 人，低ナファロアが 3 人，スベロアが 1 人に過ぎず，フランス領バスク地方全体を表すイパラルデと答えた 2 人も合わせても，フランス領バスク地方出身移民の子孫は 1 割にも満たない。最初に移民をした人の年代であるが，1820 年に高祖父がアラバからアルゼンチンに移民した人が最も古い移民である。これを含めて 1820-70 年代までが 7 人, 1880-90 年代は 12 人である。20 世紀に入り，1900-10 年代が 17 人でこの年代が最も移民者数が多い。1920-30 年代は 12 人で，1940 年代以降は 7 人に過ぎない。年別に移民した年を詳細に検討すると，バスク地方からアルゼンチンへの移民数は 2 つのピークが認められる。すなわち，19 世紀末から 20 世紀初頭に大きなピークと，1930 年代末の小さなピークである。前者は人口圧によりバスク地方から押し出された経済的要因，後者は 1936 年からのスペイン内戦の混乱を避けてバスク地方からアルゼンチンに向かった政治的要因によると考えられる。なお，移民年代と 1 世の出身領域との関連は認められなかった。移民 1 世に関するこれら 3 つの質問に対して，無回答や不明は 37 人～ 50 人に及ぶ。すなわち，自分自身はバスク系アルゼンチン人であることは自覚していても，自分の先祖の誰がいつバスク地方から移民をしたのかを把握していない人が 4 割以上いることは興味深い。

アンケート回答者のうち，少なくても 59 人が結婚している。そのうち，結婚相手がバスク系の人は 27 人，バスク系以外の人は 32 人と拮抗している（表 1 - 6）。結婚相手はアンケート回答者の属性と関連している。年齢階級別にみると，70 歳以上の結婚者 10 人のうち，8 人が相手はバスク系の人である。それが 50-60 歳代の 27 人ではバスク系が 12 人に対して非バスク系は 15 人と逆転する。さらに 30-40 歳代の 19 人ではバスク系が 7 人に対して非バスク系は 12 人と非バスク系の結婚相手の比率が高まる。若年層である 10-20 歳代で結婚者は 3 人と少ないが，全員が結婚相手は非バスク系である。このことから，現在 70 歳以上の人が結婚適齢期であった 20 世紀中葉ごろまでは，バスク系同士の結婚が一般的であったのが，20 世紀後半になると非バスク系との結婚が増えてきて，21 世紀の今日は結婚相手をバスク系から選ぶという指向は減衰している。性別にみると，男性結婚者 26 人のうち，14 人がバスク系女性と，12 人が非バスク系女性と結婚している。これに対して，女性結婚者 33 人のうち，バスク系男性とは 13 人，非バスク系男性とは 20 人と結ばれている。すなわち，バスク系男性の方が女性よりも結婚相手にバスク系を選んでいる。20 世紀前半までは移民者とその子孫は同郷者の結婚相手を求めるが，その後時代が経るにつれて，そして男性より女性のほうがより顕著に非同郷者との結婚をしていくようになるというのは，海外のウチナーンチュと同じ指向性である。この点において，移民とその子

孫の結婚行動は一般化が図れる可能性がある。

職業については 89 人からの回答があった（表 1 - 7)。このうち，学生や退職者など無職者 18 人を除くと，有職者は 71 人である。選択肢の中では，公務員または会社員といういわゆるサラリーマンが 24 人，自営業が 11 人と多く，かつてのバスク系の職業と考えられている牧畜業は 4 人，農業・林業・漁業が 6 人と少ない。その他は 26 人を数え，うち，教員や医療関係者，弁護士が 16 人である。これは，バスク系は専門職に就く比率が高いというより，専門職に就いているバスク系の人が，バスクフェスティバルに多く参加している，と考えた方が妥当だと思われる。

アンケート回答者の現在の生活への満足度は，7 割弱の 67 人がとても満足していると回答している（表 1-8)。ただし, 少し満足している（13 人）よりどちらとも言えない（15 人）のほうが多い。少し不満である，とても不満であるはどちらも 2 人ずつで，全体的にみると，生活への満足度は高い。これも，バスク系アルゼンチン人の生活満足度は高いと単純には一般化はできない。ブエノスアイレスから時間とお金をかけてバスクフェスティバルに参加できるくらいにゆとりがあり，意識が高いバスク系アルゼンチン人が生活への満足感が高いと思われる。なお，職業や年齢階級，性別などと生活の満足度とは関係性は特に見られなかった。

2. バスクの伝統や文化に対する想いの程度

アンケートでは，Q1 でバスクの伝統や文化に対する想いを「とてもそう思う」を 5 に,「全くそう思わない」を 1 とする 5 段階評価で問うている。アンケート結果を表 2 に表した。10 の質問に対して，5 段階の評価者数を上段に，その比率を下段に掲載した。また，各質問項目の平均値も求めた。

10 の質問のうち，7 の「もっとスペイン語（フランス語）を学びたい」以外は，全ての質問で「とてもそう思う」が最多の回答である。回答者のバスクの伝統や文化に対する想いの程度は極めて高い。しかし，平均値をグループ分けすることで，質問ごとに回答者の想いに若干の程度の差が認められる。最も平均値が高かった質問は「4．バスクのスポーツ・舞踏・音楽などの文化・芸能を誇りに思う」で，平均値は 4.82 である。この質問に「とてもそう思う」と答えた回答者は 88 人（83.8%）に達する。これに次いで,「3．バスク（系）人であることを誇りに思う」が平均値 4.81 である。この 2 つが平均値 4.8 を超える。平均値が 4.7 台では「9．バスクの文化（スポーツ, 舞踏, 音楽, 文学など）を学びたい。」(4.79),「2．バスクの相互扶助の伝統はとても大切である」（4.77)，「8．バスクの歴史や自分の先祖についてもっと知りたい。」(4.73),「10．他国（自国以外）のバスク人と交流をしたい」(4.73) の 4 質問である。この次の質問グループは平均値が 4.5 以下の「1．バスク語（バスク方言）

表 2　バスクの伝統や文化に対する想いの程度

（上段・人，下段・%）

		1 全くそう思わない	2 あまりそう思わない	3 どちらとも言えない	4 ややそう思う	5 とてもそう思う	合計	平均
1	バスク語（バスク方言）に愛着がある。	1 1.0	2 1.9	7 6.7	30 28.8	64 61.5	104 100.0	4.48
2	バスクの相互扶助の伝統はとても大切である。	0 0.0	1 1.0	3 2.9	15 14.4	85 81.7	104 100.0	4.77
3	バスク（系）人であることを誇りに思う。	0 0.0	0 0.0	4 3.9	11 10.8	87 85.3	102 100.0	4.81
4	バスクスポーツ・舞踏・音楽などの文化・芸能を誇りに思う。	0 0.0	0 0.0	2 1.9	15 14.3	88 83.8	105 100.0	4.82
5	バスク語を使えなくなることは，バスクの文化を失うことだと思う。	6 5.9	14 13.9	11 10.9	18 17.8	52 51.5	101 100.0	3.95
6	もっとバスク語を学びたい。	3 2.9	6 5.9	9 8.8	25 24.5	59 57.8	102 100.0	4.28
7	もっとスペイン語（フランス語）を学びたい。	22 22.4	10 10.2	34 34.7	16 16.3	16 16.3	98 100.0	2.94
8	バスクの歴史や自分の先祖についてもっと知りたい。	0 0.0	0 0.0	5 4.8	18 17.1	82 78.1	105 100.0	4.73
9	バスクの文化（スポーツ，舞踏，音楽，文学など）を学びたい。	0 0.0	0 0.0	4 3.9	14 13.6	85 82.5	103 100.0	4.79
10	他国（自国以外）のバスク人と交流したい。	1 1.0	0 0.0	2 1.9	20 19.2	81 77.9	104 100.0	4.73

アンケート集計結果より作成。

に愛着がある」(4.48)，「6．もっとバスク語を学びたい」(4.28)，「5．バスク語を使えなくなることは，バスクの文化を失うことだと思う」(3.95) とバスク語に関する 3 質問である。

これらの結果から，バスクの伝統や文化に対する想いは次のような結論となる。すなわち，バスク系アルゼンチン人はバスクのスポーツや舞踏，音楽などのバスク文化に対して極めて高い想いがあり，自分もそのような文化に触れたり，バスクの歴史を知りたいといった能動的な気持ちも強い。さらに，バスク人であることを自体を誇りに想い，バスクの相互扶助の伝統を大切にするだけではなく，他国のバスク人とも越境的なネットワークを構築して連帯することにも積極的である。その一方，バスク語への愛着やバスク語の重要性はある程度有しているものの，もっとバスク語を学びたいと思う気持ちは，バスクスポーツや舞踏を学びたいという気持ちよりも低い。バスク語を学びたいと思う気持ちが相対的に低いのは，後述するように，すでにバスク語運用能力が低いバスク系アルゼンチン人に

表 3　言語の運用レベル

（上段・人，下段・%）

	バスク語	英語	スペイン語	フランス語
何もできない（無回答）。	16 15.2	16 15.2	3 2.9	49 46.7
あいさつができる。	30 28.6	10 9.5	3 2.9	10 9.5
はっきりゆっくり話してもらえれば、だいたいの意味がわかる。	7 6.7	6 5.7	2 1.9	4 3.8
自分の身の回りの状況を簡単な言葉で説明できる。	23 21.9	18 17.1	4 3.8	11 10.5
日常的な会話に、すぐに加わることができる。	1 1.0	4 3.8	0 0.0	3 2.9
ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	19 18.1	28 26.7	6 5.7	16 15.2
流ちょうに自然に会話や議論をすることができる。	9 8.6	23 21.9	87 82.9	12 11.4
合計	105 100.0	105 100.0	105 100.0	105 100.0

アンケート集計結果より作成。

とって，バスク語の修得はハードルが高いためと思われる。その点，石かつぎや大木の切り倒し，ペロタなど，単純な動作が特徴のバスクスポーツや，即座に連帯感が醸成されるフォークダンスに代表される舞踏などは，回答者にとって簡単に取り組めてバスクを感じることができるものとして高評価を得ているものと推察される。

3. 言語の運用レベル

言語運用レベルを集計した表 3 によると，アンケート回答者 105 人のうち，バスク語は「あいさつができる」レベルが 30 人と最も多く，次いで「自分の身の回りの状況を簡単な言葉で説明できる」レベルが 23 人と続く。「日常的な会話に, すぐに加わることができる」(1 人)，「ラジオやテレビの番組の要点を理解することができる」(19 人）といった中級レベルの運用は 2 割程度,「流ちょうに自然に会話や議論をすることができる」といったネーティブといえる上級レベルの運用者は 9 人に過ぎず，全体の 1 割にも満たない。

言語運用能力を属性やバスクアイデンティティとクロス集計をしてみると，性別では男性は「ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる」が 11 人と最も多いのに対して，女性は「あいさつ程度」が 21 人が最も多かった。相対的に男性の方が女性よりもバスク語の運用能力は高い。年齢階級別にみると，10-20 歳代には「流ちょうに自然に会話

表 4　日常使用する言語

（上段・人，下段・%）

	バスク語	英語	スペイン語	フランス語
日常で使う	15 14.3	22 21.0	81 77.1	5 4.8
日常で使わない	90 85.7	83 79.0	24 22.9	100 95.2
合計	105 100.0	105 100.0	105 100.0	105 100.0

アンケート集計結果より作成。

や議論をすることができる」人は皆無であるが, 70 歳以上の年齢階層でも 1 人に過ぎない。30-40 歳代，50-60 歳代ともに最多運用レベルは「あいさつができる」である。また，注上級レベルの運用能力者の構成比はほとんど差異が認められない。次節で紹介する自分がバスク人であると思うアイデンティティの程度（11 段階評価）との関係をみると，バスク人意識が 6 以下の弱いグループは,「日常的な会話に，すぐに加わることができる」以上の中上級レベルのバスク語運用者は皆無であり，全員が初級レベル以下である。これに対して，バスク人意識が 8 以上の高いグループは，中上級レベルのバスク語運用者が全体の 3 割強を数え，アイデンティティの程度とバスク語運用能力とはある程度関係が認められる。ただし，最もアイデンティティ意識が高い 10 のグループ（40 人）でも，挨拶すらバスク語でできない人が 7 人，挨拶程度が 11 人と初心者，初級者レベルの運用能力者が半数を占めている。

日常使用する言語を集計した表 4 によると，バスク語を日常の中でよく使っている人は 105 人中 15 人に過ぎなかった。日常的にバスク語を使う人は性別や年齢などの属性とは関連性が認められなかった。

4. アイデンティティと統一バスク語

エスニックグループは，自分がどの民族集団に所属しているのか，アイデンティティの揺らぎがみられる場合が多い。バスク系アルゼンチン人は，自分をバスク人として認識しているのか，スペイン人（またはフランス人）としての意識が強いのか，それともすでに何世代前から定着して国籍も有しているアルゼンチン人と強く認識しているのか。もちろん，複数の民族集団に等しく所属していると思っている人もいるだろう。アンケート Q3 では，自分が何人であると思う強さの度合いを,「強くそう思う」を 10,「全く思わない」を 0 とする 11 段階で自分を位置づけてもらった。

表 5　アイデンティテイの程度

（上段・人，下段・%）

	全く思わない 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	強くそう思う 10	合計	平均
1 バスク人	1	1	0	2	1	6	2	10	24	16	40	103	8.3
	1.0	1.0	0.0	1.9	1.0	5.8	1.9	9.7	23.3	15.5	38.8	100.0	
2 スペイン人又はフランス人	33	6	5	9	8	6	1	9	5	8	9	99	3.8
	33.3	6.1	5.1	9.1	8.1	6.1	1.0	9.1	5.1	8.1	9.1	100.0	
3 アルゼンチン人	2	1	3	0	0	2	0	3	7	7	75	100	9.1
	2.0	1.0	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	3.0	7.0	7.0	75.0	100.0	

アンケート集計結果より作成。

表 6　統一バスク語導入がバスク文化の継承に与える影響

（上段・人，下段・%）

	全く思わない 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	強くそう思う 10	合計	平均
統一バスク語導入のバスク文化への影響	0	0	1	2	2	3	2	5	15	13	57	100	8.9
	0.0	0.0	1.0	2.0	2.0	3.0	2.0	5.0	15.0	13.0	57.0	100.0	

アンケート集計結果より作成。

表 5 によると，もっとも平均値が高かったのは，アルゼンチン人意識である。10 の「強くそう思う」と回答した者は 75%に達し，平均値は 9.1 と高い。これに対して，バスク人意識は 8.3 であった。10 を選択した者は 40 人（38.8%）と最も多かったが，8 を選択した者も 24 人（23.3%）もいる。スペイン人（またはフランス人）との意識は，0 の「全く思わない」が最多の 33 人（33.3%）であり，平均値は 3.8 とアルゼンチン人やバスク人としての意識と比較すると，極めて低い。なお，バスク人としての意識については，先述した通り，バスクフェスティバルに参加したバスク意識がもともと高い人に，バスク意識が高まるように演出された会場で行っているため，バスク意識への評価は実態より高くなると考えられる。

同じ Q3 では，「統一バスク語の導入は，バスクの言語や文化，アイデンティティを継承するのに効果的であった。」という問いかけに，11 段階評価で回答をしてもらった。その結果，10 の「強くそう思う」と回答した人が 57 人で，全体の 6 割弱を占めた。平均値も 8.9 に達している (表 6)。今回の参加者の多くはバスク文化の継承に積極的な人が多いが，そのような人達からみても，統一バスク語の文化継承への有効性は認められている。この結果は，地域によって多様なシマ言葉がある沖縄における統一ウチナーグチ制定の議論に参考になると思われる。

表 7　バスク人の要件

N=100

	1位	2位	3位	合計	同意率	加重得点
①先祖がバスク人であること	48	7	14	69	69.0	172
②出自がバスク地方であること	7	5	1	13	13.0	32
③バスク地方に住んでいること	2	3	1	6	6.0	13
④バスク語を理解すること	3	11	11	25	25.0	42
⑤バスクの伝統文化や習俗を実践していること	21	40	14	75	75.0	157
⑥バスクの屋号や名字を持っていること	6	9	22	37	37.0	58
⑦自分がバスク人であると思うこと	23	16	25	64	64.0	126
⑧その他（　　）	1	0	5	6	6.0	8

アンケート集計結果より作成。

5. バスク人やバスク地方について

アンケートでは，バスク人やバスク地方に関する考えを Q4 で聞いている。まず，Q4-1 では「あなたが考えるバスク人の要件とは何ですか」という設問に対して，その他を含めて 8 つの選択肢を最大 3 つまで順番を付けて選んでもらった。その結果を表した表 7 によると，バスク人の要件としての同意率が一番高かったものは，「バスクの伝統文化や習俗を実践していること」で 75％の人が要件として同意していた。次いで，「先祖がバスク人であること」（同意率 69％），「自分がバスク人であると思うこと」（64％）と続く。要件として 3 つまで選んでもらった全回答総数 259 のうち，以上にあげた 3 つの選択肢だけで回答の 80.3％を占めている。なお，本設問の回答は重要な要件と思っている順番で選択肢をあげてもらっているので，最も重要だと思った回答番号には 3 ポイント，2 番目に重要だと思った回答には 2 ポイント，3 番目に重要だと思った回答番号には 1 ポイントを与え，回答にそれぞれのポイントを重み付した加重得点を求めた。その結果，最も得点が高かったのは，「先祖がバスク人であること」の 172 点であった。この選択肢を回答した 69 人のうち，48 人までが要件の 1 番にあげている。これに対して，同意率が最も高かった「バスクの伝統文化や習俗を実践していること」をあげた 75 人のうちで，この選択肢を要件の 1 番にあげた人は 21 人と少なく，2 番にあげた人が 40 人と多くなっている。すなわち，バスク人の要件とは，バスク人の血統を有していることを前提条件として，自分がバスク人だと自覚して，バスクの伝統文化や習俗を継承している人，というのが共通認識といえよう。

上位の 3 つの選択肢以外は，急激に回答率は低下し，「バスクの屋号や苗字を持っている」（37％）や「バスク語を理解すること」（25％）などバスク文化を所与として身に着けていることが，バスク人要件としてはそれほど重要視されていないことは興味深い。選択肢の

表 8　バスクの地理的範囲

	人数	%
①スペインおよびフランスの7領域全体	4	3.9
②バスク自治州とナファロア自治州	8	7.8
③バスク自治州のみ	81	79.4
④フランス領バスク地方のみ	2	2.0
⑤その他	3	2.9
⑥わからない	4	3.9
合計	102	100.0

アンケート集計結果より作成。

表 9　スペインにおけるバスクの立場

	人数	%
①現行の自治制度で良い	8	7.7
②より高度な自治権を獲得すべきである	22	21.2
③バスクは、独立すべきである	69	66.3
④どうすべきかわからない	5	4.8
合計	104	100.0

アンケート集計結果より作成。

順位もそれらを 1 番目の要件にする者は少なく，要件にあげたとしても 3 番目くらいに出てくる場合が多い。さらに，「出自がバスク地方であること」（13%）や「バスク地方に住んでいること」（6%）などホームランドであるバスク地方そのものと自身との関わりを表す選択肢については，同意率は低かった。この傾向は海外ウチナーンチュたちが沖縄生まれをウチナーンチュの要件とはしていないことと共通している。

ところで，バスク系アルゼンチン人のホームランドであるバスク地方とは，そもそもどこを指すのであろうか。その地理的範囲を聞いた結果，「バスク自治州のみ」と回答した人が 81 人，全体の 79.4%を占めた（表 8）。これをアルゼンチンに初めて移民した一世の出身地とクロス集計してみた。すると，一世出身地が現在のバスク自治州を構成するビスカイア，ギブスコア，アラバの 3 領域の人よりも，それ以外の領域の人の方がバスクの範囲を「バスク自治州のみ」と回答した人の比率が高い，という興味深い結果を得た。具体的には，1 世の出身地がバスク自治州であることが判明している 44 人中 38 人がバスクの範囲を「バスク自治州のみ」と回答しているのに対して，バスク自治州以外であることが判明している 26 人中 25 人までが「バスク自治州のみ」と回答している。これは，現在，主にバスク自治州政府が在外バスク人コミュニティに対して，組織的に政策的に活動を支

表 10　バスクへの訪問回数

	人数	%
①一度もない	40	38.1
②1回のみ	29	27.6
③２～４回	24	22.9
④５～９回	9	8.6
⑤１０回以上	3	2.9
合計	105	100.0

アンケート集計結果より作成。

表 11　バスクでの生活期間

	人数	%
①全くない	74	77.9
②1年以内	17	17.9
③１年以上３年未満	2	2.1
④３年以上７年未満	1	1.1
⑤７年以上	1	1.1
合計	95	100.0

アンケート集計結果より作成。

援し，バスク文化を海外でも継承させる取り組みを積極的にしていることと関係していると思われる。バスク系アルゼンチン人にとって，一世の出身地がバスク 7 領域のどこであれ，自分たちを経済的，精神的に支援してくれるバスク自治州＝バスク地方という認識が形成されていると考えられる。

「今後，スペインにおけるバスク（ホームランド）の立場（状況）をどうすべきだと思いますか」という質問に対して，選択肢より 1 つだけ回答を求めた。その結果，独立派といえる「バスクは独立すべきである。」が 69 人（66.3%）と「より高度な自治権を獲得すべきである」が 22 人（21.2%）と多く，「現行の自治制度でよい」とする現状維持派は 8 人と全体の 1 割にも満たなかった（表 9）。独立派は年齢階級でみると 30-40 歳代で 80% を越えている。また，男女間では差異が認められなかった。バスク系アルゼンチン人はホームランドに対して，政治的に関心が高いことが改めて明らかになった。

バスク地方への訪問回数は「一度もない」が最も多く，40 人（38.1%）であったが，「1 回のみ」や「2 ～ 4 回」を合わせると 53 人となり，約半数の人が数回程度アルゼンチンからバスク地方を訪れている（表 10）。中には，10 回以上訪問している人も 3 人いて，母村との交流は継続されていることがわかる。ただし，表 11 によると，バスク地方での生活経験は 77.9%の人が有していなかった。

次ページからは今回使用したアンケート票を掲載する。

付記　本稿は，平成 27 ～ 29 年度科学研究費補助金（基盤研究（C），課題番号：15K03016）「沖縄県系移民の越境的ネットワークと意識・行動に関する地理学的研究」（研究代表者：町田宗博琉球大学教授）および 2015（平成 27）年度琉球大学中期計画達成プロジェクト（戦略的推進経費）「文化共有集団による越境的ネットワークの国際比較研究――ウチナーンチュとバスク人をめぐって――」（研究代表者：金城宏幸琉球大学教授）に基づく研究成果の一部である。

Opinion Survey of Basque Argentinians: Results and Commentaries

KINJO Hiroyuki, HAMASAKI Moriyasu, MACHIDA Munehiro,
MIYAUCHI Hisamitsu, Alberto SAKAI

Ⅰ. Summary of the survey

As part of University of the Ryukyus mid-term research project on *International comparative study of cultural communities' transnational networks: the case of Uchinanchus and Basques*, we have conducted a survey of Argentinians of Basque origin. With the aim of an eventual comparative analysis between Basque and Uchinanchu diasporas, most of the items of the questionnaire were based on a previous one we conducted in 2011 among overseas Uchinanchus, and concretely the Spanish language version of it.

The survey was carried out from the 30th of October to the 1st of November 2015 in Macachín, La Pampa Province, Argentina, on participants of the National Basque Week celebrated in that town. During the period of the festival, we were able to collect 108 completed questionnaires. Later on, we received 11 questionnaires that we had requested by post, so in total we got 119 questionnaires. However, after a cautious revision of the responses, we concluded that there were a few individuals who did not match with the study's object. Concretely, there were 6 people whose nationality and/or place of residence were not Argentinian and 8 more that who were clearly not of Basque ancestry. So in total there were 14 respondents that had to be excluded. The resultant 105 questionnaires were transferred into a calculation sheet and the data was processed.

It has to be noted that this survey was conducted in a festival whose participants have a very strong Basque identity, and the event was designed to raise this Basque consciousness even higher, so it is difficult to affirm that the results represent to all Basque Argentinians. In other words, there is a problem of representativity. In this sense, the results that are provided in this paper should be limited as a representation of the consciousness of festival attendees. Nevertheless, we can observe some different tendencies according to gender or age, and these differences might be generalized to the Basque Argentinian community as a whole.

Ⅱ. Survey results and discussion

1. Profiles of questionnaire respondents

In the questionnaires that we actually distributed in the Basque festival, the items related to social attributes and other demographic profiles were located at the end of the questionnaire.

However, let us begin reviewing this information. You can check the profiles of 105 respondents in Table 1.

First of all, we have 65 females versus 40 males (Table 1-1). Grouping the ages in ranges of ten years, the most numerous group was the one between 60 and 69 years old, with 23 individuals, followed by 50 to 59 (19 people) and the ones in their forties (18). We also had 9 teenagers, which proved that this festival attracts a wide range of ages (Table 1-2). Concerning the province of residence, Buenos Aires Province was home to 65 respondents, which made up two thirds of the total (Table 1-3). The second province, Santa Fe (11 people) and the fourth province, Entre Ríos (8) are located north of Buenos Aires. If we include Córdoba, ranked 5th with 3 respondents, the result is that almost 90% of the participants came from the capital province and its surroundings. On the other hand, there were just 2 people from La Pampa, the province where Macachín –the venue of the festival– is located. This regional distribution of the respondents most probably reflects the distribution of the residence of ethnic Basques in Argentina.

Concerning their religious beliefs, there were 71 Catholics and zero Protestants (Table 1-4). The homeland of the Basques is a territory with a strong presence of Catholicism, and this faith has been apparently transmitted in Argentina. Other options that have been marked are Judaism, Islam and "Unknown", with one person each. Despite the strong Catholic faith that Basques profess in general, there were also 24 agnostics or atheists, which made up a quarter of the total. Crossing the data with the age ranges, we found out that there were no agnostics/atheists among people of 70 years old or over; but we had 22.5% between 50 and 69, it increased to 27.6% between 30 and 49, and finally and 38.9% between 10 and 29. In conclusion, we can observe a notable decrease in religious faith among youngsters.

People were also asked about the first immigrant generation: who were their first lineal ancestors who migrated from the Basque Country, from which region they were originally and when they moved to Argentina (Tables 1-5-1 to 1-5-3). The most frequent response was that the "grandparents" were the ones who came from the Basque Country, with 29 individuals, which is almost half of the total (46.8%). Therefore, these respondents were third generation immigrants. The following group was the fourth generation or people with great-grandparents from the Basque Country (18 people or 29%). Moreover, there were 7 respondents who belonged to the fifth generation, whose great-great-grandparents were Basques. People whose parents came directly from the homeland (7 people) or who himself was born in the Basque Country (1 person) were clearly a minority. This confirms that the flow of migration to Argentina mainly occurred two or more generations ago. As for the places of origin, we divided the historical Basque Country, or Euskal Herria, in the seven traditional territories. Gipuzkoa accounted for the most cited territory, with 23 people, followed by Nafarroa

Table 1. Type of Respondents

1. Sex	people	%
① Famale	65	61.9
② Male	40	38.1
Total	105	100.0

2. Age	people	%
① 10's	9	8.6
② 20's	11	10.5
③ 30's	12	11.4
④ 40's	18	17.1
⑤ 50's	19	18.1
⑥ 60's	23	21.9
⑦ 70's	11	10.5
⑧ 80's	2	1.9
Total	105	100.0

3. Current Adress	people	%
Buenos Aires	65	65.7
Santa Fe	11	11.1
Rio Negro	9	9.1
Entre Rios	8	8.1
Cordova	3	3.0
La Pampa	2	2.0
San Luis	1	1.0
Total	99	100.0

4. Religion	people	%
① Catholic	71	72.4
② Protestant	0	0.0
③ No religion	24	24.5
④ Other	3	3.1
Total	98	100.0

5-1. Person of Immigration	people	%
① Yourself	1	1.6
② Parents	7	11.3
③ Grandparents	29	46.8
④ Great-grandparents	18	29.0
⑤ High- grandparents	7	11.3
Total	62	100.0

5-2. Birthplace	people	%
Bizkaia	13	19.1
Gipuzkoa	23	33.8
Alava	8	11.8
Navarra	19	27.9
Lapurdi	1	1.5
Nafarroa Beherea	3	4.4
Zuberoa	1	1.5
Ipparalde（French Basque）	2	2.9
Total	68	100.0

5-3. Year of Immigration	people	%
1820－70s	7	12.7
1880－90s	12	21.8
1900－10s	17	30.9
1920－30s	12	21.8
1940s－	7	12.7
Total	55	100.0

6. Marriage Partner	people	%
① Basque	27	45.8
② Non-Basque	32	54.2
Total	59	100.0

7. Occupation	people	%
① Employees	24	27.0
② Sheephelder	4	4.5
③ Agriculture, forestry and fisheries	6	6.7
④ Self employed (or his/her family)	11	12.4
⑤ Unemployed (or Retired)	18	20.2
⑥ Other	26	29.2
Total	89	100.0

8. Satisfaction to the Current of Life	people	%
① Strongly satisfied	67	67.7
② Somewhat satisfied	13	13.1
③ Neither satisfied nor dissatisfied	15	15.2
④ Rather dissatisfied	2	2.0
⑤ Strongly dissatisfied	2	2.0
Total	99	100.0

(19) and Bizkaia (13). If we include Araba (9 respondents), more than 90% of the participants descended from the four territories pertaining to current Spanish. On the other hand, there was only a few people whose origin was one of the three French-Basque territories: Lapurdi (1 individuals), Lower Navarre (3) and Suberoa (1). Even including the two people who marked "Iparralde" (which stands for the whole French Basque Country) as their homeland, they didn't even account for 1% of the respondents. Finally, let's have a look at the year of emigration. The oldest date declared in the questionnaire is a great-great-grandfather who migrated from Araba to Argentina in the 1820s. Including this person, there were 7 ancestors who migrated in the period between 1820 and 1879, and 12 others did it between 1880 and 1899. In the 20th century we find the most cited period, from 1900 to 1919, with 17 descendants, followed by the period 1920-1939 (12 people). We only have 7 people whose ancestors migrated after 1940. By analysing these data thoroughly, two peaks can be found in the migration flow, i.e., a big peak in the turn of the 19th and 20th centuries and another smaller one at the end of the 1930s. The former was mainly fuelled by economic factors like the demographic pressure that pushed people out of the Basque Country, while the latter is better explained by political factors such as the flight from the horrors of Spanish Civil War (1936-1939). It should be noted that we didn't find a correlation between the year of migration and the territory of origin of the first-generation immigrants. The three questions related to this topic got between 37 and 50 "No answer" or "Unknown" responses. In other words, in spite of being aware of their Basque roots, more than 40% of the surveyed people didn't know exactly which ancestor came when from the Basque Country.

At least 59 of the respondents were married. Among these people, 27 were married to an ethnic Basque person, a figure very close to the 32 who had non-Basque spouses (Table 1-6). The election of partner shows a correlation with the respondents' profiles. Let us look at this information by age groups. Among the 10 married people aged more than 70 years, 8 individuals have ethnic Basque spouses. In the age group of 50-69 years the figures turn around, with 12 people married to Basques and 15 with non-Basques (from a total of 27). Moreover, in the range of 30-49 years old the percentage of non-Basque partners is even higher, with 12 from a total of 19, whereas only 7 were ethnic Basques. In the youngest range (from 10 to 29 years old) there were only 3 married respondents, but none of them with a Basque descendant. This suggests that until mid-20th century, when current septuagenarians were at a marriageable age, it was common to marry to another ethnic Basque person; however, marriages with non-Basques became more frequent during the second half of the century and finally in the 21st century the intra-ethnic marriage is an uncommon option. By genders, from a total of 26 married males, 14 had ethnic Basque wives and 12 had non-Basque wives. On the contrary, the 33 married women were divided in 13 with Basque partners and 20 with

non-Basque partners. Until mid-20th century, the immigrants and their descendants tend to look for a marriage partner from the same place of origin. But, over time, we notice a tendency to marry with people of other ethnicities; and this tendency is stronger in males than in females. These trends are very similar to the ones we found in Okinawan communities abroad. In this sense, it would be possible to explore broader generalizations about marriage behaviour in immigrants and their descendants.

Regarding occupation, we collected 89 responses (Table 1-7). If we exclude 18 people who had no employment, like students or retirees, we have 71 employed people. The most marked options were civil servants or company employees (24 people) and self-employed (11), whilst traditional Basque immigrants' occupations like livestock raiser or shepherd (4) and agriculture, forestry or fisheries (6) were small in number. There were 26 people who chose "Other" and 16 of them reported to be a teacher, a medical worker or a lawyer. This doesn't necessarily suggest that there is a high rate of professional workers in the Basque community, but, at least, we can note that many professional workers participate in the Basque National Week.

The degree of satisfaction with their current lives was "very satisfied" for 67 people, which accounts for almost 70% (Table 1-8). However, there were more respondents reporting to be "neither satisfied nor dissatisfied" (15) than "somewhat satisfied" (13). Only a few participants chose "somewhat dissatisfied" or "very dissatisfied", 2 people each, so in general terms the degree of satisfaction with life is high. Nevertheless, we cannot simply extrapolate this to all the Basque Argentinian community. We only can conclude that those Basque Argentinians that have enough money and time to afford the journey from Buenos Aires (or other places) to Macachín, with a high consciousness of their identity, are satisfied with their lives. It is worth mentioning that there was no special correlation between the degree of satisfaction and the occupation, age or gender.

2. The degree of consciousness toward Basque culture and traditions

The questionnaire started asking about the opinion of Basque culture and traditions, with a five-step scale from 1 ("strongly disagree") to 5 ("strongly agree"). The results are compiled in Table 2. For each of the ten answers, upper raw expresses the number of responses and lower raw the percentages. We have included the average number for each item as well.

Except for statement 1-7 "I would like to learn Spanish", most of the respondents reported to "strongly agree" to all the statements. The degree of consciousness toward Basque culture and traditions seems to be very high among the surveyed people. However, if we divide the average figures in groups, we can detect slight differences of opinion for each statement. The highest rank was for statement 1-4 "I am proud of Basque sports, dance, music and other cultural traditions and

Table 2. Questions on Your Opinion of Basque Culture and Tradition

(upper・people, lower・%)

		1 Strongly disagree	2 rather disagree	3 neither agree nor disagree	4 somewhat agree	5 Strongly agree	Total	Avarage
1	I feel an attachment to euskara (euskera/eskuara)	1 1.0	2 1.9	7 6.7	30 28.8	64 61.5	104 100.0	4.48
2	I think the Basque tradition of reciprocal help is important	0 0.0	1 1.0	3 2.9	15 14.4	85 81.7	104 100.0	4.77
3	I am proud to be euskaldun (or its descendant)	0 0.0	0 0.0	4 3.9	11 10.8	87 85.3	102 100.0	4.81
4	I am proud of Basque sports, dance, music and other cultural traditions and performing arts	0 0.0	0 0.0	2 1.9	15 14.3	88 83.8	105 100.0	4.82
5	I believe that Basque culture will be lost as euskara (euskera/ eskuara) comes to be no longer used	6 5.9	14 13.9	11 10.9	18 17.8	52 51.5	101 100.0	3.95
6	I would like to learn euskara (euskera/ eskuara)	3 2.9	6 5.9	9 8.8	25 24.5	59 57.8	102 100.0	4.28
7	I would like to learn Spanish(French?)	22 22.4	10 10.2	34 34.7	16 16.3	16 16.3	98 100.0	2.94
8	I would like to know more about Basque history and my family roots	0 0.0	0 0.0	5 4.8	18 17.1	82 78.1	105 100.0	4.73
9	I would like to learn about Basque culture (sports, dance, music, literature, cuisine, crafts etc.)	0 0.0	0 0.0	4 3.9	14 13.6	85 82.5	103 100.0	4.79
10	I would like to interact with countries (other than U.S.A.)	1 1.0	0 0.0	2 1.9	20 19.2	81 77.9	104 100.0	4.73

performing arts", with 4.82 average points. The number of people who answered that "strongly agree" to this statement topped 88 (83.8%). In second position, statement 1-3 "I am proud to be Basque (or its descendant)" had 4.81 average points. These two items surpassed the line of 4.8 average points. In the range of 4.7 points we have 1-9 "I would like to learn about Basque culture (sports, dance, music, literature, cuisine, crafts, etc.)" (4.79 points), 1-2 "I think the Basque tradition of reciprocal help is important" (4.77 points), 1-8 "I would like to know more about Basque history and my family roots" (4.73 points) and 1-10 "I would like to interact with Basques in other countries (other than Argentina)" (4.73 points). And then we have a block of statements ranked below 4.5 average points, specifically the three items related to Basque language or *euskara*: 1-1 "I feel attached to euskara (euskera/eskuara)" (4.48 points), 1-6 "I would like to learn euskara (euskera/eskuara)" (4.28) and 1-5 "I believe that Basque culture will be lost if euskara (euskera/eskuara) becomes no

longer used" (3.95 points).

From these results, we could draw some tentative conclusions about the opinions concerning Basque traditions and culture. First of all, Basque Argentinians show a very high degree of awareness of Basque cultural expressions such as traditional sports, dance and music, as well as a strong interest in being actively involved in that culture and learning more about the history of the Basque Country. At the same time, they are proud of being Basques and they give importance not only to the tradition of reciprocal help, but to actively construct solidarity networks with Basques in other countries. On the other hand, although they feel attached to Basque language and they acknowledge the importance of maintaining it, this feeling is not as strong as the desire of learning the traditional sports and dances. As we will explain later, this relatively weak feeling toward the Basque language might be related to the already low number of Euskara speakers in the community, making it very difficult for them to learn the language. In that sense, we can easily understand why stone-lifting, wood-chopping, *pelota* and other rural sports that requires simple movements, along with folk dances or other cultural forms that instantly creates a sense of belonging get higher ranks, since those are activities easy to participate in and they permit them to feel the *Basqueness*.

3. Level of language use

According to the language use levels compiled in Table 3, the most reported level of Basque language was "I can exchange greetings", with 30 people from the total of 105. The second one was "I can use easy words to describe what is going on around me", with 23 respondents. Scarcely a 20 per cent of the surveyed people had an intermediate level of proficiency: only one who reported that can "join daily conversations without any problem" and 19 who can "understand the main points of a radio or TV program". Only 9 people had a level that can be considered "native", i.e., that can "converse and debate naturally and fluently", which accounted for less than 10 per cent.

Now we are going to cross these language proficiency data with social profiles and the level of Basque identity. In terms of gender, male participants mostly responded "I can understand the main points of a radio or TV program" (11 people), whereas their female counterparts mostly reported that they only can exchange greetings in Basque language (21 people), suggesting that males have a relatively higher knowledge of Euskara than females. Concerning the age, in the range of 10 to 29 years old there was nobody who can converse and debate naturally and fluently; even between those over 70 there was only one person that could be considered as native speaker. In the blocks of 30 to 49 and 50 to 69, the most reported level was "I can exchange greetings" and there were no significant difference in the percentage of intermediate and advance speakers. Looking at the eleven-stepped level of self-identification as a Basque (which will be explained in more detail in the next section),

Table 3. Questions About the Operational level of the Language You Use

（upper・people, lower・%）

	Euskara	English	Spanish	French
I can not do anyting (no answer).	16 15.2	16 15.2	3 2.9	49 46.7
I can exchange greetings.	30 28.6	10 9.5	3 2.9	10 9.5
If someone speaks slowly and clearly, I can understand most of what is being said.	7 6.7	6 5.7	2 1.9	4 3.8
I can use easy words to describe what is going on around me.	23 21.9	18 17.1	4 3.8	11 10.5
I can join daily conversations without any problem.	1 1.0	4 3.8	0 0.0	3 2.9
I can understand the main points of a radio or TV program.	19 18.1	28 26.7	6 5.7	16 15.2
I can converse and debate naturally and fluently.	9 8.6	23 21.9	87 82.9	12 11.4
Total	105 100.0	105 100.0	105 100.0	105 100.0

there was a lack of intermediate or advanced native speakers in the group less identified as Basque (level 6 or below), so everybody was in the realm of *newbies* in Euskara. On the contrary, amongst those who had a strong Basque identity (level 8 or above) one third of the people had an intermediate or advanced proficiency of Basque language, suggesting a correlation between the level of identity and Basque language proficiency. Nevertheless, even in the group with the highest level 10 of ethnic self-identification (40 people), the number of basic speakers of Basque, including 7 who can't speak Basque at all or 11 that can only greet, accounted for half of the total cases.

According to Table 4, that shows the language usage in everyday life, only 15 of the 105 surveyed people used Basque on a daily basis, without any correlation with gender, sex and other attributes.

4. Identity and Standard Basque

Ethnic minorities frequently suffer identity confusion, not being clear which social group they belong to. Basques Argentinians have multiple identity choices, namely the Basque identity, Spanish or French identity and, after a few generations, the Argentinian identity (which of course coincides with their official nationality). Of course we can find individuals who feel attached to different groups at the same time. In Question 3 of the survey, we requested the respondents to mark each of

Table 4. Questions About the Language You Usually Use

（upper・people，lower・%）

	Euskara	English	Spanish	French
usually use	15 14.3	22 21.0	81 77.1	5 4.8
do not usually use	90 85.7	83 79.0	24 22.9	100 95.2
Total	105 100.0	105 100.0	105 100.0	105 100.0

Other answer:　Portuguese 4，Italian 2，Arabic 1

Table 5. Questions about Your Thoughts on Identity

（upper・people，lower・%）

	Strongly disagree										Strongly agree		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Total	Avarage
1 euskaldun	1 1.0	1 1.0	0 0.0	2 1.9	1 1.0	6 5.8	2 1.9	10 9.7	24 23.3	16 15.5	40 38.8	103 100.0	8.3
2 Spanish or French	33 33.3	6 6.1	5 5.1	9 9.1	8 8.1	6 6.1	1 1.0	9 9.1	5 5.1	8 8.1	9 9.1	99 100.0	3.8
3 Argentine	2 2.0	1 1.0	3 3.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	3 3.0	7 7.0	7 7.0	75 75.0	100 100.0	9.1

Table 6. Questions about Your Thoughts on Impact on the Inheritation of Basque Culture by the Introduction of Euskara Batua

（upper・people，lower・%）

	Strongly disagree										Strongly agree		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Total	Avarage
1 euskaldun	1 1.0	1 1.0	0 0.0	2 1.9	1 1.0	6 5.8	2 1.9	10 9.7	24 23.3	16 15.5	40 38.8	103 100.0	8.3
2 Spanish or French	33 33.3	6 6.1	5 5.1	9 9.1	8 8.1	6 6.1	1 1.0	9 9.1	5 5.1	8 8.1	9 9.1	99 100.0	3.8
3 Argentine	2 2.0	1 1.0	3 3.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	3 3.0	7 7.0	7 7.0	75 75.0	100 100.0	9.1

the identities with an eleven-stepped scale, from 0 (“Strongly disagree”) to 10 (“Strongly agree”).

As we can see in Table 5, the identity with the highest average point was the Argentinian identity. 75% of the respondents marked level 10 “Strongly agree”, getting an average point of 9.1. On the other hand, the Basque identity had 8.3 points. Most of the people selected level 10 (40 people or 38.8%), but there were also an important number of participants who marked 8 (24 people or

23.3%). As for the Spanish/French identity, the most chosen level was 0 “Strongly disagree”, with 33 people (33.3%). It should be stressed that, as we have already noted, the survey has been conducted with people who already had a strong Basque identity, in a festival venue designed to strengthen those feelings, so the high rank of Basque consciousness does not necessarily reflect the feelings of the Basque Argentinian community as a whole.

In the same section we asked if “the introduction of *euskara batua* (Standard Basque) has been effective to maintain the language, culture and identity of the Basque Country”, on a scale from 0 to 10. The result is that level 10, “Strongly agree”, was marked by 57 people, which means almost a 60 per cent. The resulting average point was as high as 8.9. The participants of the Basque festival were mostly very keen on transmitting Basque culture to future generations. And for (most of) these people, the usefulness of a standardized Basque language for the transmission of culture is taken for granted. This result might provide a good reference for the discussions around the suitability of creating a standard *uchinaaguchi* in Okinawa, where numerous Ryukyuan dialects coexist in the different regions of the archipelago.

5. About the Basques and the Basque Country

In Question 4 we inquired the opinion of the respondents about Basque people and the Basque Country. After asking what are the most important conditions for a person to be qualified as a Basque, we offered a list of eight choices (including “Other”) from which three had to be selected and written down in order of importance. The results have been put together in Table 7. The most selected condition was “to practice Basque traditions and culture”, with 75% of approval. In second place was “to have Basque ancestors/roots” (69%) and in third place “to identify oneself as Basque” (64%). These three conditions made up 80.3% of the 259 conditions that were mentioned (from first to third positions). This section also requested to put the conditions in order of importance, so we gave 3 points to the conditions mentioned in the first place, 2 points for the second place and 1 point for the third place. The resulting weighted points showed that “to have a Basque ancestor/roots” was the most valued condition, since 48 of the 69 respondents who chose it put it in first place. The most mentioned condition –“to practice Basque traditions and culture” (chosen by 75 people) – was put in first place only by 21 respondents, and in second place by 40. So the general framework for Basqueness would be as follows: to have Basque roots is a prerequisite, but someone must have the consciousness of being Basque and to promote the transmission of Basque traditions and culture.

Apart from the aforementioned three conditions, the rest of the choices have very low percentages. It is interesting to note that some cultural features that could be taken for granted, such as “to have a Basque family/house name” (37%) or “to be able to understand euskara (euskera/

Table 7. Questions about Your Opinions on the Important Conditions for a Person to be Identified as Euskaldun

N=100

	First	Second	Third	Total	Concent rate	Weighted score
① To have Basque ancestors(roots)	48	7	14	69	69.0	172
② To have been born in Euskal Herria	7	5	1	13	13.0	32
③ To be living in Euskal Herria	2	3	1	6	6.0	13
④ To be able to understand euskara (euskera/eskuara)	3	11	11	25	25.0	42
⑤ To be practicing Basque traditions and culture	21	40	14	75	75.0	157
⑥ To have a Basque family/house name	6	9	22	37	37.0	58
⑦ To identify oneself as euskaldun	23	16	25	64	64.0	126
⑧ Other	1	0	5	6	6.0	8

eskuara)" (25%) are not very highly valued by our respondents. These two conditions are never put in first place, but mostly in third position. Furthermore, the choices that imply a direct relationship with the homeland, like "to have been born in Euskal Herria" (13%) or "to be living in Euskal Herria" (6%) have even lower rates. This tendency coincides with the one we found among overseas Uchinanchus, for whom having been born in homeland Okinawa is not an important condition.

Now, what place is exactly the so-called homeland for Basque Argentinians? Responding to the request of indicating the geographic area that comprises the "Land of the Basques" (Euskal Herria), 81 people answered that it was "only the Basque Autonomous Community in Spain", which accounts for 79.4% of the total (Table 8). We crossed this data with the information about the origin of the first generation migrants. Surprisingly, more than the descendants of the three provinces of the Basque Autonomous Community (Bizkaia, Gipuzkoa and Araba), respondents who originally came from other provinces tend to choose "only the Basque Autonomous Community in Spain". Concretely, there are 44 people who identified their first generation ancestor as native to current Basque Autonomous Community, of which 38 defines the Basque Country as "only the Basque Autonomous Community in Spain". In contrast, there are 26 people whose ancestors came from other parts of Basque Country and, except for one person, all of them consider "only the Basque Autonomous Community in Spain" as their homeland. This relates to the fact that the Basque Autonomous Community has been systematically supporting the overseas ethnic Basques with official policies and being active in the transmission of Basque culture in the diaspora. Regardless of which of the seven provinces did the first generation come from, Basque Argentinians consider that the Basque Country is the territory whose Government is helping them both economically and emotionally.

Table 8. Questions about Your Opinions on the geographical sphere of Euskal Herria

	people	%
① only Basque Autonomous Community of Spain	4	3.9
② Autonomous Community of Basque and Navarra	8	7.8
③ all of the seven regions	81	79.4
④ only French Basque	2	2.0
⑤ other	3	2.9
⑥ I have no idea on this	4	3.9
Total	102	100.0

Table 9. Questions about Your Opinions on Euskadi's Standing in Spain in the Future

	people	%
① It should remain as an Autonomous State within Spain as it is now	8	7.7
② It should obtain more autonomy from the Central Government than it has now	22	21.2
③ Euskadi (Basque Country) should be independent.	69	66.3
④ I don't know what should be done	5	4.8
Total	104	100.0

Table 10. Questions about times You visit Euskal Herria

	people	%
① None	40	38.1
② once	29	27.6
③ two to four times	24	22.9
④ five to nine times	9	8.6
⑤ more than ten times	3	2.9
Total	105	100.0

Table 11. Questions about the Period You Lived in Euskal Herria

	people	%
① None	74	77.9
② less than one year	17	17.9
③ one to three years	2	2.1
④ three to seven years	1	1.1
⑤ more than seven years	1	1.1
Total	95	100.0

We also asked what should be the Basque Country's standing in Spain in the future and it only was possible to choose one answer. The majority were in favour of independence (69 people, 66.3%) or obtaining more autonomy from Spanish central Government (22 people, 21.2%). The 8 respondents who think that it should "remain as an Autonomous State within Spain as it is now" accounted for less than 10% (Table 9). If we examine the ages of pro-independence respondents, more than 80% of them are between 30 and 49 years old. However, there wasn't a significant difference between genders. This data definitely confirms that the political situation of the homeland garners considerable interest among Basque Argentinians.

And finally we wanted to know the frequency with which they visited the Basque Country. The most numerous reply was "None", with 40 people (38.1%). If we combine the number of respondents who reported "once" and "two to four times" the result is 53 people. In conclusion, almost half of the participants have visited the Basque Country anytime (Table 10). There were even 3 people who visited it more than 10 times, which indicates a fluent exchange with the homeland. However, as noted in Table 11, 77.9% of the total had no residing experience in the Basque Country.

From next page on, you will find the questionnaire used in the survey.

ESPAÑOL

～Encuesta de opinión de la diáspora vasca 2015～

Solicitud de colaboración

Nuestro grupo de investigación está llevando a cabo una encuesta dirigida a los emigrantes vascos y descendientes radicados en Argentina y otros países. Esta investigación tiene como propósito último hacer un estudio comparativo entre las diásporas vasca y okinawense (originarios de Okinawa, Japón) y sus redes transnacionales, así como fomentar el desarrollo de ambas comunidades en todo el mundo. Las respuestas serán anónimas y los datos se manejarán únicamente con fines estadísticos. Le garantizamos que su privacidad estará totalmente protegida. Le agradecemos su comprensión y amable colaboración en este proyecto.

Hiroyuki KINJO

Catedrático, director del grupo de investigación

Facultad de Derecho y Letras, Universidad de Ryukyu

Para cualquier duda o comentario acerca de esta encuesta, diríjase a:
Hiroyuki KINJO
Facultad de Derecho y Letras, Universidad de Ryukyu
Senbaru 1, Nishihara, Okinawa, Japón, C.P. 903-0213
TEL：098-895-8924　E-mail：hdmkinjo@ll.u-ryukyu.ac.jp

＜Instrucciones y ejemplos para completar la encuesta＞

I. Lea detenidamente cada enunciado y **marque con un círculo** el número que mejor represente su opinión. Tenga cuidado de no equivocarse de número.

Ejemplo 1) Marque con un círculo el número que corresponda a lo que usted piensa.

		En desacuerdo	*No muy de acuerdo*	*Indiferente*	*Bastante de acuerdo*	*Totalmente de acuerdo*
1-1)	Siento apego hacia el euskara (cualquier variedad de la lengua vasca)	1	(2)	3	4	5
1-2)	Considero importante la costumbre vasca de ayuda mutua	1	2	3	(4)	5
1-3)	Me siento orgulloso/a de ser vasco/a	1	2	3	4	(5)

Ejemplo 2) Marque con un círculo su grado de arraigo a la identidad argentina.

Ningún arraigo ***Mucho arraigo***

<0 1 2 3 4 5 6 7 (8) 9 10>

II. Por favor, responda reflejando su propia opinión y no la de otros. **No pida a otra persona, en mitad de la encuesta, que rellene el resto**.

III. **No hay respuestas «correctas» o «incorrectas».** Lo que pretendemos es conocer su opinión. Trate de responder con sinceridad .

IV. La encuesta consta de cuatro páginas y está dividida en seis apartados (de P1 a P6). Le agradeceríamos que respondiera a todas las preguntas que le conciernan para poder alcanzar los objetivos de este estudio.

*** Encuesta de opinión de la diáspora vasca 2015***

P1. Preguntas acerca de su opinión sobre la cultura y tradiciones vascas (siga las indicaciones del Ejemplo 1)

Lea los siguientes enunciados y marque con un círculo la cifra que mejor represente su opinión.

		En desacuerdo	*No muy de acuerdo*	*Indiferente*	*Bastante de acuerdo*	*Totalmente de acuerdo*
1-1)	**Siento apego hacia el euskara (cualquier variedad de la lengua vasca)**	1	2	3	4	5
1-2)	**Considero importante la costumbre vasca de ayuda mutua**	1	2	3	4	5
1-3)	**Me siento orgulloso/a de ser vasco/a**	1	2	3	4	5
1-4)	**Me siento orgulloso/a de la cultura y el arte vascos, tales como los deportes tradicionales, las danzas y la música**	1	2	3	4	5
1-5)	**Pienso que si se dejara de hablar el euskara se perdería la cultura vasca**	1	2	3	4	5
1-6)	**Quiero aprender euskara**	1	2	3	4	5
1-7)	**Quiero aprender francés**	1	2	3	4	5
1-8)	**Quiero saber más acerca de la historia vasca y mis raíces**	1	2	3	4	5
1-9)	**Quiero aprender acerca de la cultura vasca (deportes, música, literatura, gastronomía, artesanía, etc.)**	1	2	3	4	5
1-10)	**Quiero relacionarme con vascos y descendientes radicados en otros países (fuera de Argentina)**	1	2	3	4	5

P2. Preguntas acerca del conocimiento de lenguas

*2-1) ¿Es capaz de desenvolverse en **euskara, inglés, español o francés** en las siguientes situaciones? Marque con un aspa (☑) las opciones 1 a 6 cuando corresponda en cada lengua.*

（***Ejemplo***）

	euskara	inglés	español	francés
① Puedo saludar.	☑	☑	☑	☑
② Entiendo algo si me hablan despacio y claro.	☑	☑	☐	☐
③ Puedo usar palabras sencillas para dar información personal básica.	☑	☐	☐	☐
.	.	.	.	.

【Respuesta】

		euskara	inglés	español	francés
①	Puedo saludar.	□	□	□	□
②	Entiendo algo si me hablan despacio y claro.	□	□	□	□
③	Puedo usar palabras sencillas para dar información personal básica.	□	□	□	□
④	Puedo participar en una conversación cotidiana sin problemas.	□	□	□	□
⑤	Puedo entender las ideas principales de los programas de radio o televisión.	□	□	□	□
⑥	Puedo conversar y debatir con soltura y naturalidad.	□	□	□	□

*2-2) Marque con **un círculo todos los idiomas** que usted emplea en su vida diaria. Si utiliza alguna lengua que no figura en la lista agréguela en el espacio en blanco.*

(① euskara　② inglés　③ español　④ francés　⑤ otros idiomas→(　　)

P3. Preguntas acerca de la identidad (siga las indicaciones del Ejemplo 2)

*3-1) ¿Se considera usted vasco/a? En una escala del 1 al 10 **marque con un círculo** su grado de arraigo a la identidad vasca.*

Ningún arraigo ***Mucho arraigo***

<0……1……2……3……4……5……6……7……8……9……10>

*3-2) En una escala del 1 al 10 **marque con un círculo** su grado de arraigo a la identidad española o francesa.*

Ningún arraigo ***Mucho arraigo***

<0……1……2……3……4……5……6……7……8……9……10>

*3-3) En una escala del 1 al 10 **marque con un círculo** su grado de arraigo a la identidad argentina.*

Ningún arraigo ***Mucho arraigo***

<0……1……2……3……4……5……6……7……8……9……10>

*3-4) ¿Cree que la introducción del euskara batua ha sido efectiva para el mantenimiento de la lengua, cultura e identidad de los vascos? En una escala del 1 al 10 **marque con un círculo** su grado de conformidad con esta opinión.*

En desacuerdo ***Muy de acuerdo***

<0……1……2……3……4……5……6……7……8……9……10>

6-3) ¿Dónde nació? ① País: ( ) ② Provincia (Estado): ( )

*6-4) ¿Cuál es su religión? Marque con un círculo **uno** de los siguientes números.*

① catolicismo ② protestantismo ③ no tengo religión ④ otra→ ( )

6-5) ¿De qué parte de Euskal Herria emigraron usted o sus antepasados? ¿Cuándo?

Quién: ① yo ② un ancestro → ( ) ③ algún ancestro, pero no sé quién

De dónde: ① ( ) ② no sé exactamente de qué parte de Euskal Herria

Cuándo: ① ( ) ② desconozco cuándo

6-6) Si está usted casado/a o tiene pareja, responda a la siguiente pregunta (si es soltero/a, salte a la pregunta 6-7)

¿Su pareja es vasca o de origen vasco? (① Sí ② No, no tiene origen vasco)

*6-7) ¿A qué se dedica? Marque con un círculo **un número**. Si tiene varias ocupaciones, indique la principal.*

(① Empleado (público o privado) ② Ganadero o pastor
③ Agricultura, silvicultura o pesca (incluidos empleados en negocios familiares) ④ Sin empleo (incluidos jubilados)
⑤ Autónomo/independiente (negocio propio) ⑥ Otra ocupación ( ))

*6-8) ¿Está usted satisfecho/a con su vida actual? Marque con un círculo **una opción**.*

(① Muy satisfecho/a ② Algo satisfecho/a ③ Normal/No sabría responder
④ Algo insatisfecho/a ⑤ Muy insatisfecho/a)

Muchas gracias por el tiempo dedicado a completar la encuesta

■*Si quiere agregar algún comentario o petición acerca de la diáspora vasca, puede escribir libremente en este espacio.*

6-3)　¿Dónde nació?　① País: (　　)　② Provincia (Estado): (　　)

*6-4)　¿Cuál es su religión? Marque con un círculo **uno** de los siguientes números.*

① catolicismo　② protestantismo　③ no tengo religión　④ otra→ (　　)

6-5)　¿De qué parte de Euskal Herria emigraron usted o sus antepasados? ¿Cuándo?

Quién: ① yo　② un ancestro → (　　) ③ algún ancestro, pero no sé quién

De dónde: ① (　　)　② no sé exactamente de qué parte de Euskal Herria

Cuándo: ① (　　)　② desconozco cuándo

6-6)　Si está usted casado/a o tiene pareja, responda a la siguiente pregunta (si es soltero/a, salte a la pregunta 6-7)

¿Su pareja es vasca o de origen vasco?　(① Sí　② No, no tiene origen vasco)

*6-7)　¿A qué se dedica? Marque con un círculo **un número**. Si tiene varias ocupaciones, indique la principal.*

(① Empleado (público o privado)　② Ganadero o pastor
③ Agricultura, silvicultura o pesca (incluidos empleados en negocios familiares)　④ Sin empleo (incluidos jubilados)
⑤ Autónomo/independiente (negocio propio)　⑥ Otra ocupación (　　))

*6-8)　¿Está usted satisfecho/a con su vida actual? Marque con un círculo **una opción**.*

(① Muy satisfecho/a　② Algo satisfecho/a　③ Normal/No sabría responder
④ Algo insatisfecho/a　⑤ Muy insatisfecho/a)

Muchas gracias por el tiempo dedicado a completar la encuesta

■*Si quiere agregar algún comentario o petición acerca de la diáspora vasca, puede escribir libremente en este espacio.*